

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270101496		
法人名	(有)さいわいケアハウス		
事業所名	グループ住宅さわやか		
所在地	青森市中佃1丁目26番地1号		
自己評価作成日	平成25年7月12日	評価結果市町村受理日	平成25年10月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成25年8月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>① 利用者が安心して「普通の暮らし」を送れる家庭的な生活環境を提供する。                  ② 共同生活を通じて利用者の残存機能の活用を促す。                  ③ スタッフは、認知症状態にある要介護高齢者の介護にとって必要な精神面での理解、対応能力知識と技術を高めると共に、共同生活の一員として利用者の暮らしを見守り、支援する。                  ④ 家族との信頼関係の強化と維持に努める。                  ⑤ 医療機関との連携を強化する。                  ⑥ 地域にとけこんだ家・地域との交流を図られることとする。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホーム近くには小・中学校やスーパーもあり、日常生活でも利便性に恵まれた地域に立地している。                  また、日頃からホーム周辺を散歩して地域住民と声を掛け合い、行事を開催する際には参加を呼び掛け、交流を図っている。                  職員は、利用者と一緒に話ができるよう1対1になる機会を作る等、工夫しながら利用者の思いの把握に努めており、笑顔をもっと日々のケアに努めている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの役割を理解し、事業所独自の理念を形成しており、日々のサービス提供に反映させている。	「笑顔」「利用者の残存機能の活用」「家族との信頼関係」「地域との交流」をテーマに、ホーム独自の理念を作成しており、朝礼での唱和やホーム内への掲示等により、理念の共有化を図っている。また、職員は理念の意味を理解し、地域住民と利用者及びホーム全体がより良い関係を保つことができるよう、理念の実践に向けた支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人達に事業所を理解してもらおうと共に、気軽に立ち寄ってもらえるような働きかけを行っている。	町内会に加入している他、地域住民と触れ合う機会が持てるよう、日頃からホーム周辺を散歩して声を掛け合い、行事を開催する際にも参加を呼び掛けている。また、資格取得のための実習生の受け入れも行き、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に活用している	見学や認知症に関する相談の他、実習生を受け入れたり、事業所の持つ専門性や実践経験を地域に還元し、認知症に関する普及活動に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーには運営推進会議の意義や役割を理解してもらい、積極的に参加を促し、報告や情報交換を行う等、サービスの質の確保、向上につなげている。	運営推進会議を2ヶ月毎に開催しており、自己及び外部評価結果を説明している他、職員間で話し合った改善策についても報告がなされている。また、ホーム行事や脱水症状等の季節に応じた健康管理、利用者の日常生活状況等も報告しており、メンバーから出された助言や提案を今後のサービスの質の向上のために活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には市職員、または地域包括支援センター職員が参加しており、利用者の利便性の向上等、生活の質を高めるために、課題解決に向けて行政との連携を図っている。	市にホームのパンフレットや広報誌を配布している他、運営推進会議の会議録や自己及び外部評価結果の他、目標達成計画も毎回提出している。また、制度に関する事等を随時間い合わせ、行政との連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束は行わないという姿勢で日々のケアを提供しているものの、やむを得ず身体拘束を行う場合には家族等に説明を行い、同意を得ている。	ホームでは、毎年職員が交代で外部研修に参加する等、身体拘束の理解を深めており、利用者が自由な生活を送れるよう、日々の支援に努めている。近隣住民とは日頃から交流があり、万が一の無断外出時には協力が得られる関係にある他、利用者の外出傾向を察知した場合には、職員との相性や外出願望の原因把握に努め、必要に応じて職員が付き添う等、気分転換を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加等を通して、高齢者虐待防止法に関する理解を深めており、虐待は決して行わないという意識で日々のケアを提供している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は日常生活自立支事業や成年後見人制度について学び、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、利用者や家族等に事業所の理念、ケアの方針や取り組みについて説明し、退去の際には不安を生じさせないよう支援を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が意見や苦情を出しやすいように、苦情受付窓口を明示している。出された意見や苦情は速やかに検討し、今後の事業所の運営に活かしている。	意見や要望が出しやすいように、ホーム内外の苦情相談窓口を重要事項説明書に明示している他、ホーム内にも掲示している。また、出された意見や要望等は、その都度職員間で話し合い、できる限り希望に沿えるように対応し、個々のケース記録等にも対応の経過を記載して、今後のケアに活かせるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営方法や利用者の受け入れの決定事項について、職員の意見を聞く機会を設けている。	業務の中で気付いたことがあれば、その都度職員間で意見交換をしたり、管理者に話せる環境である他、職員から出された意見等は、朝の送りや業務日誌を活用して共有化を図っている。また、日頃から各ユニット間で交流があり、異動等を行った場合に利用者が不安を感じることはないように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は現場の状況の他、職員の日々の努力や勤務状況を把握しており、やりがいや向上心が持てる職場環境となるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の確保、向上に向けて、職員育成の必要性を認識しており、職員は研修を受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流、連携を通じて、日々のサービスの向上や職員育成につなげるために取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用希望者や家族と面談する等、直接話を聞く機会を設けており、身体状況や思い、希望、ニーズ、不安を把握するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と面談する等、直接話を聞く機会を設けており、家族と信頼関係を築くことを意識しながら対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用希望者や家族のニーズに対し、何が必要かを見極め、必要に応じて、地域包括支援センター等の関係機関と連携を図り、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者を理解するよう努めており、得意分野で力を発揮してもらう等、利用者と職員が共同しながら生活している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を密に行い、家族の思いを把握し、利用者を共に支える関係を築くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が馴染みの人や場所との関係を継続できるよう支援している。	入居時の聞き取りや入居後の日々の関わりを通じて、利用者の馴染みの場所や人を把握できるように努めている。また、電話のやりとりは相手先の意向を確認した上で支援しており、面会も積極的に受け入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士が共に助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解し、より良い人間関係づくりができるよう働きかけを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の相談に応じる等、利用者や家族との関係を継続するように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者を理解するように努め、得意分野で力を発揮してもらおう等、利用者や職員が共同しながら生活している。	職員は、利用者の表情や行動からその日の体調や気分等を把握しており、笑顔をもっとに日々のケアに努めている。意向の把握が困難な時は、必要に応じて家族や友人等から情報を収集したり、利用者同士の会話の中からも情報が得られるよう注意深い見守りや観察に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は利用者の思いや希望、意向を把握するよう努め、必要に応じて、本人のことをよく知っている家族から情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活歴やライフスタイルについて、家族から情報収集している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の日々の生活を通して、1日の暮らし方や生活のリズムを把握し、利用者のできる事、わかる力を把握するように努めている。	利用者とゆっくり話ができるよう1対1になる機会を作る等、工夫しながら利用者の思いの把握に努め、担当職員その他、全職員の気付きも共有しながら介護計画の作成に取り組んでいる。また、面会や電話連絡の際に、家族の意見や希望を聞けるように働きかけしており、利用者ができる部分を維持・向上させ、できない部分を補うような、個別で具体的な介護計画の作成を心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりについて、日々の暮らしの様子や身体状況等を具体的に記録し、全職員が共有できる仕組みを整えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者と家族等との暮らしの継続性を支援するために、柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや地域のサービス事業者、関係団体、民生委員、住民によって構成される人的ネットワーク組織の構築に向けて、働きかけを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望する医療機関を受診できるよう支援している。 受診結果は利用者や家族との共有が図られている。	利用者や家族の希望を優先した受診支援に取り組んでいる他、ホームの2つの協力医療機関の往診により、利用者の健康管理に努めている。また、通院方法や受診結果の伝達方法は、入居時に利用者や家族と話し合い、納得が得られており、必要に応じて家族にも受診に立ち会っていただき、情報の共有化を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の資格を持った職員が配置されていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と、利用者に関する情報交換や支援体制について、家族も含めて話し合いを行う体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日常的な健康管理や急変時の対応について、利用者や家族等、医療機関と話し合いを行い、意思統一を図っている。	入居時に、急変時の対応について、利用者や家族と意思統一が図られている。ホームでは、2つの協力医療機関による往診がそれぞれ週1回行われており、その内1つの医療機関は24時間対応可能な体制となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間の対応も含めて、応急手当やその後の連絡、対応方法等に関する緊急時対応マニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中だけでなく、夜間も想定した具体的な避難誘導等を行えるよう、職員と利用者が一緒になり、定期的に訓練を行っている。	ホームの事務室に緊急連絡網を掲示している他、日中・夜間を想定した災害時対応マニュアルを作成し、年2回、利用者と職員が一緒になって避難訓練を実施している。また、専門業者が消火器、スプリンクラー等の設備点検を行っている他、災害発生時に備えて、ホーム内に2、3日分程度の食料や飲料水、毛布等を用意している。	災害発生時における地域住民との協力体制構築に向けた働きかけにも期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の言動を否定したり、拒否せず、プライバシーに配慮して業務を行っている。	利用者一人ひとりのペースに合わせた対応を心掛けており、言動を否定や拒否したりせず、自尊心に配慮した支援に取り組んでいる。利用者への対応で気になることがあれば、その都度職員同士で注意し合い、必要に応じて朝礼や申し送り等で話し合うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の力量に応じて自己決定する場面を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのその日の希望、身体・精神状況に合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みで衣服を選んだり、おしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者と一緒に席に着き、利用者との会話を楽しみながら食事時間を過ごしている。	季節や行事も考慮の上、利用者の希望を取り入れながら献立を作成している。利用者は、無理のない範囲で食事の下ごしらえや配膳等を職員と一緒にしており、職員は利用者の摂取状況を見守りながら、同じ席に着いて食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事、水分摂取量を把握しており、暮らし全体を通して食欲を促し、食が進むように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者一人ひとりの習慣や意向を踏まえ、声掛けや口腔ケアを一緒に行う等、一人ひとりの能力に応じて支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンに応じて事前誘導を行う等、自立に向けて支援している。	利用者一人ひとりの排泄チェック表を基に、個々のケース記録に排尿・排便の回数が記載されている。また、利用者の排泄のサインを察知して、その都度トイレ誘導を行っている他、誘導時や失禁時の声掛けはプライバシーにも配慮の上、一人ひとりに合わせて工夫している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因を探ると共に、一日の食事や排泄、活動状況を見直し、個々に応じて予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴習慣や入浴方法等、利用者の意向を取り入れ、利用者の負担を理解した上で支援している。 また、入浴を拒否する利用者に対しては、声掛けや対応を工夫している。	入居時の聞き取りや日頃の関わりの中で、利用者の入浴習慣や好みを把握し、希望に沿った入浴となるよう支援している。職員は、入浴の際の利用者の羞恥心や負担感、不公平にならないような入浴の順番にも配慮している他、体調や気分に合わせて、時間をおいて声掛けしたり、清拭にする等、柔軟な対応に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、その日の出来事や疲れ具合に応じて、柔軟に休息を取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が利用者の薬の内容を把握できるよう取り組み、飲み忘れや誤薬が無いよう支援体制を整備している。 薬の処方や用量が変更した時は、全職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や希望、力量を把握し、一人ひとりに合った役割や楽しみ事を促す働きかけを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者のその日の状況や身体状況に合わせた支援を行っている。 また、必要に応じて、家族に協力を呼び掛けている。	利用者の希望と心身状況に合わせた外出行事を計画している他、ホーム菜園での野菜作りや近隣の散歩、音楽療法への参加等、できる限り外に出る機会を設けている。また、行事の際は前もって家族にお知らせし、協力を働きかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者や家族の希望等に配慮しながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者への電話や手紙を歓迎しており、利用者が電話を掛けたり、手紙を出すことができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を保てるよう配慮し、季節を感じるできるように工夫している。	ホールには食卓テーブルとソファが置かれ、利用者が好みの場所で過ごすことができる他、車椅子でも安心して移動できる広さを確保している。窓からの日射しが不十分な所は、照明を利用して適度な明るさを保っており、テレビや音楽の音量も適切である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間に、利用者が一人、または数人で過ごせるような場所を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が愛用していた物や馴染みの物を持ってきてもらうように働きかけており、一人ひとりに合った居室づくりを行っている。	入居後も必要に応じてその都度家族と連絡をとり、馴染みの物や利用者が希望する物を持ってきていただきながら、利用者が落ち着いて生活できるよう支援している。持ち込みが少ない場合には、利用者の意向も聞きながら、職員と一緒に作った作品や誕生会の写真等を飾り、その人らしく暮らせるような居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の混乱や行動の失敗を招くような環境の要因に対して、速やかに改善につなげるように工夫している。		